

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を具体化し、玄関やフロア等に掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、日々管理者と職員は取り組んでいる。グループホームのサービスの質の向上と、職員一人ひとりの質の向上していくよう努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域密着型施設として位置づけられたグループホームとして、家族や友人、地域の人を自由に受け入れ、取り組んでいる。地域参加として、外出を積極的に支援している。定期的に家族会などを開催していく。また、具体的な事例を話し、当所の実行について説明している。	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会を積極的に開催したり、ボランティアの受入、地域のイベント等に積極的に参加したり、地域の人達との交流を深めていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が気軽に声をかけ合えるよう、職員が間に入り、話ができるきっかけを作っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等に、積極的に参加している。利用者の家族の中には、家族が認知症であることを知られたくない人もおり、入居の際に家族の意思確認を行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 地域の行事活動に、これまで以上に参加したいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。	○	今後、高齢者福祉を担っていく実習生の受け入れを積極的にいき、人材育成に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員には自己評価、外部評価の意義を伝え、評価の過程を通じ、質の確保・向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催し、活動状況の報告、意見交換等を行っている。	○	家族が参加しやすいよう働きかけていき、たくさんの意見・要望を聞けるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度は、これから見識を深める努力をしていかなければならないことであり、今後、積極的に勉強の機会を持ちたいと考える。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度に関する勉強会に、積極的に参加していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法のマニュアルに添って、勉強会や運営推進会議の場で学ぶ機会を持つ。今のところは該当者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的なストレスを抱え込まないように話し合いながら支援し、月1回のミーティング時に管理者と話し合い、問題解決を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時などに、家族に十分に説明を行っている。また、常に相談窓口を開き、利用者、家族に不安や疑問点などを尋ね、何かあれば、その都度対応している。解約の場合、家族には十分な説明と今後の行き先について話し合い、理解してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に機会を設けているわけではないが、日々の生活の中での意見は、会議等で話し合うことにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な新聞の報告や、面会の際に近況報告などをしていく。必要な場合は、健康状態を電話連絡し、受診等の説明し、了解を得ている。金銭については、家族の許可を得て本人任せにしている。職員の異動については、特に報告はしていない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営委員会などで意見をいただき、よりよい運営につなげていくよう努力している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に機会を作っていないが、毎日の申し送り時や意見の提案があれば、その都度聞いている。意見等があれば、管理者を交え、改善できるものは改善している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務体制や臨機応変な対応について、管理者と職員が話し合い、柔軟な対応が取れるよう勤務調整している。また、外出時や緊急時も同様である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはグループホームの職員は固定化しているが、交代の場合は、利用者へのダメージを最小限に防ぐよう配慮し、一人ひとりにきちんと紹介している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スキルアップ研修への参加 香川県介護サービス事業者協会他を行っている。 ・上位の資格習得を勧めている。 介護福祉士・介護支援専門員等	○	ターミナルケアまたは重度者ケアのスキルアップ
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・香川県福祉環境をよくする会への参加 ・歌・踊り等のボランティアチームとの交流を行っている。	○	香川県介護サービス事業者協会主催にて、グループホーム相互の職員交流研修会を計画している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	労務管理において、規則正しく、無理のない出勤計画を実行している。	○	職員のアフタファイブの親睦行事
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	私達の仕事が高齢化社会の中で意義のある社会資源として、存在価値を広くPRし、また、自らが自覚することが大切である。職員の資格習得に向けた支援を行い、習得後は、本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。	○	地域社会ともしっかりと交流が図れるように努める。職員は、利用者やその家族に信頼されていると感じること。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の話をよく聴くことを大切にしている。本人の話したいことを受け止め、理解しようと努めている。また、入居前は、訪問したりホーム見学をし、雰囲気を感じてもらい、不安感の解消になるよう心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの話をよく聴き、求めていることを理解し、事業所としてどのような対応ができるかを話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入所までの期間は家族によって異なるため、急を要する場合や待機していただき入所の場合もある。その中でできる限りの対応をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活やレクリエーションの中で、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況や心情を理解するよう努め、何でも話し合える関係を築くよう努力している。家族の立場を踏まえて、利用者を支援している。家族会を定期的に開催し、家族の抱える問題を共有できるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	おやつ時やレクリエーション時などのコミュニケーションを通じ、入居前の家族との関係を聴く場としている。職員と利用者とのよりよい関係作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人、知人等の家に遊びに行ったり、我が家に帰ったりと、本人の望みが叶えられるよう継続的支援を心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役となり、気の合う利用者が過ごせる場面を作り、お互いが支えあえる支援をしている。また、心身の状態や気分、感情が日々変化するので、事故のないよう注意深く見守るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後のお見舞いや情報収集は行っている。家族や本人が望むようであれば関係を続けたいと思っているが、家族によって接し方等に違いがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が困難な方でも繰り返し声かけすることで、何を思っているか理解できる方もいる。本人本位の視点に立ち、考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のこれまでの生活や趣味などを、家族に尋ねながら勧めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の関わりの中から、何ができるかを見つけ、一緒に行ったり、声かけし、見守り、把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実行しているが、入居者一人ひとりの現状や特徴を踏まえ、もっとよりよいケアができるよう、職員全員が入居者や家族に話を聴き、相談しながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じ、随時見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づくチェックリストや介護記録により、職員がお互いに情報を共有している。また、日常の様子や言葉を記録している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスにボランティア演芸が来る時は、一緒に観賞したり、友人がデイサービスに来ている時には会いに行く。また、介護の重度化で入浴介助が困難な時には、デイサービスの入浴による支援や病院への受診介助、福祉タクシー利用等、本人の希望により、職員と一緒に自宅に帰る支援をしている。季節に応じ、草花の観賞のための外出をしたり、臨機応変な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌、踊り、大正琴等のボランティアの訪問、秋祭りの獅子舞、消防訓練など、地域の資源を活用した支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当ケアマネジャーと入居後の関わりは少なく、時々、職員が状況報告する程度となっている。介護保険外のサービスについて把握できていないのが現状であるが、使えるサービスそのものが少ない。	○	保険外のサービスについては、情報収集に努め、活用できるものは活用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは機能していないと思う。グループホームに入居してしまうと、施設側の対応のみとなるのが、現状のように思われる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、あらかじめ家族と受診病院について話し合っている。家族の希望の医療機関を受診するよう支援している。医療と連携を取りながら、適切に対応するように努めており、かかりつけ医は24時間対応で協力していただいている。また、定期的に診察を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2か所の医療機関を確保しており、適切な指示や助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームに看護職員を配置しており、日常の健康管理を支援している。協力医院からの訪問看護を依頼したり、隣のデイサービスから応援を依頼し、病状の早期発見に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に病院を訪問し、状態を把握しながら、退院に向け相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向については聴いており、本人の希望を尊重しながら、家族と主治医の話し合いのうえ、職員全員に方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や末期の入居者は、今後増えていくことが予想される。これについて、事業所として一定の方針を策定することが急務となる。	○	重度化、終末期や病状急変時の対応に関して、事業所としての対応、指針を整備していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージの例はないが、事前にご家族と相談しながら計画的に進め、情報提供等で生活の変化に戸惑うことがないよう対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方には注意を払っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。個人情報家族と相談しながら対応している。	○ 入居者一人ひとりに尊敬を払い、職員同士が自分の態度を振り返ることができるような機会を持てるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	意思表示ができない方には、自己決定ができるよう簡単な選択肢で対応している。個々に合わせた声かけ、その場に応じた対応等を強要することなく、できる範囲で支援している。	○ 認知症が進行し、意思表示ができなくなってきた入居者には、工夫しながら対応していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の認知症の進行状況や身体的能力により、ケアする職員の人数的な制限で、必ずしも一人ひとりのペースに合わせたケアができていないのが現状である。	○ できる範囲で、入居者の希望に沿えるような支援を工夫し、ケアしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った服装、外出時の身だしなみには気を配っている。散髪は家族が外出時に行ったり、居室で家族が散髪を行うなど、家族の協力を得ながら支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、下膳等は入居者と共に行う。できる人が限られているが、職員と協力し合い、楽しくできる雰囲気作りをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む飲み物、おやつ、好みのもの等を、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、チェック表にて時間での声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄につなげている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴は毎日、決められた時間帯の中で、ご本人の入りたい時に合わせて入っている。デイサービスの風呂も利用させていただいている。いつでも入浴ができるという状態には、まだ至っていない。	○	時間帯については、ご本人の希望があれば浴えるような支援をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない人については、安心して眠れるよう見回りを行い、必要に応じ声かけし、事故、転倒のないよう見回る。また、物音などは、すぐその音の原因を探し対応する。必要に応じ、日中休息を取ってもらっているが、薬に頼らない支援を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や持てる能力を活かした役割、楽しみごと、気分転換を図る支援をし、毎日楽しく、毎日笑顔で過ごせるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族と話し合い、その本人の状態に応じた管理方法を決め、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさず、隣のデイサービスや事務所へ訪問したり、職員と園内で散歩、草取り、レクリエーション等ができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアとして、帰宅支援を行っている。また、家族にお願いし、面会時に外出してもらえよう働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、入居者のほとんどが行おうとはしていない。(若干1名を除き)要望があるときは、随時対応している。職員が、代わりに家族に伝えるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時はお茶を出したり、居室内に椅子を持っていく等の過ごしやすい配慮をしている。意思疎通が困難な方には、職員が間に入り、状況や会話につなげるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除委員会を設置し、拘束は絶対しないよう取り組んでいる。5つの基本ケアに努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠しており、自由に出入りができるようになっている。職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、フロアにいる職員が見守っている。夜間は本人の状態に合わせ、何度も巡回し、落ち着いている方は、1時間置きの巡回を徹底している。	○	今後も、1時間おきの巡回や状態に合わせた巡回、見守りを徹底し、安全に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に何を持っているか把握し、状態に応じて、管理するように努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議時や消防署での防火訓練時に知識を身につけるよう努め、事故が起きた場合は、緊急連絡網で早急な対応を徹底している。	○	今後も継続して、事故防止に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当やAED(自動体外式除細動器)の使い方の講習を受けているが、定期的な訓練は不十分である。	○	定期的な訓練を継続し、職員全員が、緊急時の対応が取れるような体制作りをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在の状況について、面会時や電話で報告しているが、今後起こりうるリスクについて、全員の家族とは話し合えていない。リスクの高い方に限り、面会時に説明するようにしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェック、食事量、排泄、表情、行動等で異常の早期発見に努め、異常があれば主治医へ連絡する体制を取っている。また、申し送りノートに記載し、情報を共有している。主治医は24時間体制で携帯電話で報告、指示を受けている。場合によっては、救急車の要請、付き添いや受け入れ先の確保等を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や副作用に関しては、薬局からの説明書をファイルし、いつでも閲覧できるようにしている。内服の変更等は申し送りノートを活用し、全員に周知している。	○	申し送りノートの活用は、今後も継続して情報の共有化を図っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ身体を動かすよう、ラジオ体操や運動を取り入れている。医師と相談しながら、下剤や座薬、訪問看護で浣腸などの対応をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを実施している。入居者の能力に応じ、見守りや指導、介助による支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、状態を把握している。入居者一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、消毒等を習慣づけ実行している。	○	今後も手洗い等の徹底を図っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染予防のため、毎日必要に応じ、殺菌している。食中毒警報の情報が入り次第、掲示板に掲示し、職員全員に情報を周知している。台拭きは毎日洗濯し、衛生面には気をつけている。まな板は、乾燥機で熱消毒を行う。食材は必ず火を通し、調理したものは冷蔵庫等を利用し保管する。冷蔵庫の中も毎日点検し、古い食材等は捨てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、可愛いめだかが泳いでいる。中に入れば、入居者がスムーズに出入りしやすいようにスペースをとり、立ったまま靴を履くのは危険なので、椅子を並べて安全性を確保している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔感を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋、フロア等を確保している。また、廊下にはソファを置き、気の合った人が気軽に談話し、くつろげる場所を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則としては、何を持ち込んでもいいことにしている。職員の飼っているペットの犬が来て、入居者の心を和ませている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風通しはよい。靴箱やおいの気になる所には消臭剤を設置し、臭いに対して配慮している。秋から冬にかけては乾燥に配慮し、加湿器を設置して対応している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の周りは手すりを設け、危険物を取り除き、活動しやすいよう工夫している。玄関には椅子を置き、自分で靴を履き替えられるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の混乱を招かないように、必要でないものや場所の変更等をしない。また、混乱を招くようなものは、周囲に置かないよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム内外では、ボール遊び、散歩、日光浴、外気浴等を楽しまれている。畑にはみかんの木を植え、成長を待ち望んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

せとうち福祉サービスは、在宅介護の総合的支援ができるよう、地域の社会資源として活躍することを目標としている。グループホームせとうちは、この一員としての役目を担うことを使命としている。職員の介護力の向上を目的として、全員が介護福祉士の習得を達成し、今後も更なるスキルアップを進める。また、職員のコミュニケーション能力の向上に努める。